



日本で新型 Body Scanner 運用開始

世界各国で発生している航空機を標的としたテロやハイジャックを防止するため、世界各国の空港において保安対策強化への取り組みが行われています。日本国内でも従来の金属探知式に比べて飛躍的にセキュリティチェック能力が向上した **Body Scanner** の導入が計画され、2015年10月から2ヶ月間、羽田、成田、関西の各空港で評価実験がなされました。

そして2016年4月1日から関西空港で **Body Scanner** の実運用が開始され（下図アを採用）、翌2017年3月29日には羽田空港国際線ターミナルと成田空港でも、従来の金属探知機に代わる新型装置として国際線出発旅客の保安検査に本格導入されました（羽田は下図イ、成田は下図ウを採用）。

メーカー (製造国)	機種	サイズ(m) 高さ×幅×奥行 重量	電波仕様	検査方法	
				検出方法及び表示画面	検出時間
L3 (米国)	(ア) ProVision ATD 	2.67×1.95×2.65 682kg	ミリ波 アクティブ方式	機器内部に入り、 両手を上げて静止 (約3秒間) 	(入場から画像確認まで) 7~10秒
	(イ) ProVision 2 	2.36×1.50×2.31 695kg			
Smiths (ドイツ)	(ウ) eqo(エコー) 	2.11×1.08×2.42 470kg	ミリ波 アクティブ方式	両手を上げて 被験者が360度回転 (平均10~15秒間) 	(入場から画像確認まで) 12~20秒
Rohde & Schwarz (ドイツ)	(エ) QPS200 	2.35×1.3×2.6 630kg	ミリ波 アクティブ方式	手を下ろして静止 (約0.064秒) 	(入場から画像確認まで) 約10秒

<2015年に日本の各空港で試験実施されたボディスキャナー。国土交通省資料>



今回導入されたタイプは世界で最も運用されているもので、携帯電話の 1/10000 の微弱なミリ波を約 3 秒間照射し、その後ソフトウェアを使用してプライバシーの保護に配慮しつつ全身の透視スキャンを行い、様々な隠匿物を安全かつ迅速に検出することが可能となっています。

これら装置の利点として、以下が挙げられます。

- a. X線を使用しない為、被験者が被曝する恐れがない。
- b. 微弱なミリ波（電磁波）を使用する為、ペースメーカー使用者への検査が可能。
- c. 金属のみでなく、プラスチック、木、セラミック、液体の投資検査が可能。
- d. スキャンにより感知された隠匿物は、モニター上のデフォルト（人形型の像）に色付きで表示され、検査後消去される。
- e. 隠匿物が感知された場合においても、色がついた部分のみピンポイントで接触検査を行える為、検査時間の短縮化が可能。

これらの装置はこれまでの **Body Scanner** より小型化されており、設置面でのメリットもあげられます。

以 上